※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

【生物】資料２－1

① 市野谷の森（通称：おおたかの森）

多様性　評価結果

市の鳥であるオオタカの生息が確認される市内有数の森林である。一定の絶滅危惧種数が確認されているが、伸びているとは言えず、今後も生育環境の整備が必要である。

◎

環境タイプ	森林 湿地 草地

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	153	203	195	187								
絶滅危惧種数	3	5	5	5								

2011 ワニグチソウ(C)、ヤブムグラ(B)、ササクサ(C)　2012 ジュウニヒトエ(D)、ヤブムグラ(B)、ワニグチソウ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)
2013 ジュウニヒトエ(D)、ヤブムグラ(B)、ワニグチソウ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)　2014 ジュウニヒトエ(D)、ヤブムグラ(B)、ワニグチソウ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)

鳥類

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	20	20・27	19・24	20・1	21・24	16・22	26・20	20・20	17・23	11・25	30	26
絶滅危惧種数	3	10	9	6	6	6	7	6	7	7	6	3

2011 オオタカ(C)、ホオジロ(C)、ノスリ(C)　2012 アカゲラ(C)、オオタカ(C),カケス(D)、コチドリ(B)、セッカ(D)、センダイムシクイ(C)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)
2013 アカゲラ(C)、オオタカ(C),カケス(D)、クロジ(D)、サンコウチョウ(A)、ヒバリ(D),フクロウ(B)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)
2014 オオタカ(C)。オオルリ(B)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)　2015 イワツバメ(D)、オオタカ(C)、キビタキ(A)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)
2016 アカゲラ(C)、オオタカ(C),カケス(D)、コチドリ(A)、ヒバリ(D),ホオジロ(C)　2017 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、ツミ(D)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)
2018 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、キビタキ(A)。センダイムシクイ(C)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)　2019 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)。クロジ(D)、ヒバリ(D)、ホオジロ」(C)
2020 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、カワセミ(C)、ツミ(D)、ヒバリ(D)、ミソサザイ(C)2021 オオタカ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、クロジ(D)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)　2022 カケス(D)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)

チョウ類

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	34	37	38	40	42	45	43	39	41	41	42	40
絶滅危惧種数	3	3	2	4	5	6	4	3	4	2	5	3

2011 ミヤマチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、オオチャバネセセリ(C)　2012 オナガアゲハ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)
2013 ゴマダラチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)　2014 オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)
2015 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)
2016 ミヤマチャバネセセリ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ミドリヒョウモン(C)、アカシジミ(C)
2017 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)　2018 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)
2019 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)　2020 アカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)
2021 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、コムラサキ(C)　2022 アカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、コムラサキ(C)

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ニホンアカガエル 市野谷の森内で９拠点を調査している。例年一定数を確認できており、R4では、２拠点で50を超える卵塊数(51、99)を確認している。 ※ヘイケボタル、カヤネズミは調査なし

モニタリング調査員意見

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

担保・制約性　評価結果

県立公園は令和12年度まで、近隣公園は令和６年度末まで整備事業が行われる。整備が完了すれば、より市民が立ち入りやすくなることが見込まれる。保全に取り組むにあたっては、大部分が千葉県の管轄になるため、協議が必要である。また、例年子供向けの自然環境イベントを開催する会場としているため、市として今後も活用していきたい。

◎

地権者	公有地	所管	全体面積・・・24.1ha 県立市野谷の森公園(18.5ha)⇒千葉県柏土木事務所公園街路課

			市野谷の森西近隣公園(2.6ha)・市野谷の森東近隣公園(3.0ha)⇒流山市役所みどりの課

市民的視点

おおたかの森駅や住宅街の付近にあるため、「身近な森」のイメージがあるかと思われる。また、現状は、散策するためのマップの設置はされているが、遊歩道の確保はされていない。

総合評価

市内中央に位置する市内有数の森林である。少ないながら一定の絶滅危惧種数が確認されており、今後の整備次第で希少種の生育が見込まれる。本拠点は、県立公園と近隣公園として整備が行われており、整備が終了すれば市民が立ち入りやすくなることが見込まれる。本拠点の保全の取り組みにあたっては、大部分が千葉県の管轄になるため、協議が必要である。希少種が生育されるということは、そこにはそれ以外の良好な環境が整っていると考えられる。また、自然環境イベントを開催する会場としても魅力的であり、今後も活用していきたい。	◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

【生物】資料２－２

②市野谷水鳥の池

多様性　評価結果

植物のみの調査拠点であるが、数年を比較して大きな増減なく一定の種類数を確認できており、今後も希少種の生育が見込まれる。

◎

環境タイプ	調整池　湿地　草地

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数					160	160	136	139	149	102	150	146
絶滅危惧種数					7	6	4	4	4	2	7	6

2015　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、カワラヨモギ(C)、ヤガミスゲ(D)、カンエンガヤツリ(D)、ミゾコウジュ(D)、タタラカンガレイ(D)、

2016　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ヤガミスゲ(D)、カンエンガヤツリ(D)、タタラカンガレイ(D)、ネナシカズラ(A)

2017　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ヤガミスゲ(D)、ミゾコウジュ(D)　2018　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ヌマガヤ(B)、タタラカンガレイ(D)

2019　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ミゾコウジュ(D)、タタラカンガレイ(D)　2020　ヤガミスゲ(D)、ミゾコウジュ(D)

2021　ウスゲチョウジタデ(NT)、カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、イヌハギ(C)、ヤガミスゲ(D)、ミゾコウジュ(D)、コムラサキ(C)

2022　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、サクラソウ(NT)、オノエヤナギ(C)、コムラサキ(C)、ミゾコウジュ(D)

モニタリング調査員意見

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

担保・制約性　評価結果

調整池でありながら、自然環境を整備することを重視している貴重な市有地である。
令和５年12月より、管轄である下水道建設課が、今後小学校の環境学習や環境イベントに利用することを視野に入れ、遊歩道や展望スペースの確保等の整備工事を実施したため、今後は市民がより間近で自然に触れる機会が期待出来る。（下水道建設課も生物多様性保全に対し、協力的である。）

◎

地権者	公有地	所管	流山市役所下水道建設課

市民的視点

普段は敷地内を開放していない。おおたかの森駅や住宅街の付近にあるため、市民にとって身近な自然環境であると言える。また様々な鳥類が観察出来るため、それを楽しみにしている市民も多数いる。

総合評価

植物のみの調査拠点であるが、種類は多く、希少種の数も大きな増減はなく一定の種類数が確認できており、今後も希少種の生育が見込まれる、調査は行っていないがさまざまな鳥類が観察できるなど、多様性の観点からも重要な場所である。
管轄は本市の上下水道局であり、令和５年度には自然に触れやすくなる整備を行うなど、生物多様性に協力的である。
身近な自然環境、かつ、間近で自然に触れることが期待できる拠点である。

◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

③西初石小鳥の森

多様性　評価結果

市内の自然保護団体が維持管理に携わっているため、環境に合った保全や整備が施されている。保全に取組むにあたっても協力や意見を貰いやすい。また、市民団体や近隣の学校の行事として、ホタルの放流を実施していることから、市内でも有数のホタルが観測できる重要な箇所であり、保全に積極的に取り組むべきであると認識している。
絶滅危惧種数の観測数自体は少ないものの、植物、鳥類、チョウ類を総じて一定の観測数を記録し続けている。また、ヘイケボタルについては市内拠点で最も観測数が多い拠点の一つであり、良好な地形を生かし、引き続き重要拠点の一つと考える。

◎

環境タイプ	谷津　斜面林　湧水　湿地

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	118	129	158	161			86	55	63	78	88	70
絶滅危惧種数	3	2	3	4			2	2	2	3	2	3

2011 キンラン(D)、ササクサ(C)、ヤブスゲ(C)　2012 キンラン(D)、ササクサ(C)　2013 キンラン(D)、ササクサ(C)、ワニグチソウ(C)
2014 キンラン(D)、ササクサ(C)、ヌマガヤ(B)、ワニグチソウ(C)　2017 キンラン(D)、ササクサ(C)　2018 キンラン(D)、ササクサ(C)　2019 キンラン(D)、ササクサ(C)
2020 キンラン(D)、ササクサ(C)、ワニグチソウ(C)　2021 キンラン(D)、ササクサ(C)　2022 ギンラン(D)、ササクサ(C)、ウシタキソウ(C)

鳥類

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	--15	12-19	12-18	11--								
絶滅危惧種数	1	2	2	1								

2011 カケス(D)　2012 カケス(D)、ホトトギス(C)　2013 アカゲラ(C)、カケス(D)　2014 カケス(D)

チョウ類

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	21	25	27	24								
絶滅危惧種数	1	1	1	1								

2011 ゴマダラチョウ(C)　2012 ゴマダラチョウ(C)　2013 ゴマダラチョウ(C)　2014 ミドリヒョウモン(C)

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ヘイケボタル 市内で最もヘイケボタル観測数が多い拠点の一つ。個体数についても2019年34、2020年41、2021年50、2022年62と一定数を観測するとともに増加傾向にある。

モニタリング調査員意見

地形が良好である。この拠点における調査対象では無いが、ニホンアカガエルも確認できている。

担保・制約性　評価結果

市内の自然保護団体が維持管理に携わっているため、環境に合った保全や整備が施されている。保全に取組むにあたっても協力や意見を貰いやすい。（モニタリング調査員の中にも当該自然保護団体に所属している方が複数名いる。）
また、市民団体や近隣の学校の行事として、ホタルの放流を実施していることから、市内でも有数のホタルが観測できる重要な箇所であり、保全に積極的に取り組むべきであると認識している。

◎

地権者	公有地、民有地	所管	流山市役所みどりの課（維持管理は市内自然保護団体に委託）

市民的視点
遊歩道の途中にベンチが設置されていることや、植物名が記載されているプレートが要所に設置されているため、市民が立ち入りやすく、自然に触れやすい環境になっている。水辺には展望スペースがあり、自然観察をするための環境づくりもされている。また、市内自然保護団体の所有の自然保護を促す看板も設置されている。

総合評価

希少種は少ないものの、一定の観測数を記録していること、また、ホタルの観測ができることからも多様性として高い評価をしている。 拠点そのものが環境に合った保全や整備が施されていることもあるが、市民団体の協力もあり、今後も、植物をはじめとして様々な生物の観測が可能と考えている。 市民団体だけでなく、近隣の学校の行事として、ホタルの放流を実施していることから、自然と触れ合える場所でもあり、引き続き重要拠点の一つであると考える。	◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

④大畔の森（稲荷神社裏の谷津）

多様性　評価結果

植物相の絶滅危惧種数の観測数の増加が顕著である。ヘイケボタルも一定数を観測し続けており、良質な水環境が維持されていると判断する。

◎

環境タイプ	谷津　斜面林　湧水　湿地

モニタリング調査データ

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数							129	137	136	59	190	188
	絶滅危惧種数							3	2	2	3	10	13

2017　タチゲヒメヘビイチゴ(C)、トチバニンジン(D)、ウシタキソウ(C)　2018　トチバニンジン(D)、ウシタキソウ(C)　2019　トチバニンジン(D)、ウシタキソウ(C)

2020　キンラン(D)、ワニグチソウ(C)、ウシタキソウ(C)

2021　イガホオズキ(C)、キンラン(D)、ワニグチソウ(C)、ササバキンラン(D)、シソクサ(D)、ジュウニヒトエ(D)、タチゲヒメヘビイチゴ(C)、トチバニンジン(D)、ヒメゴウソ(D)、ヤガミスゲ(D)

2022　イガホオズキ(C)、イヌハギ(C)、ウシタキソウ(C)、キンラン(D)、サギソウ(A)、ササバキンラン(D)、シソクサ(D)、ジュウニヒトエ(D)、トチバニンジン(D)、ヒメゴウソ(D)、ヤガミスゲ(D)、ヤブスゲ(C)、ワニグチソウ(C)

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ヘイケボタル 個体数について2019年17、2020年11、2021年39、2022年27と継続して一定数を観測している。

モニタリング調査員意見

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

担保・制約性　評価結果

市内の自然保護団体が維持管理に携わっているため、環境に合った保全や整備が施されている。保全に取組むにあたっても協力や意見を貰いやすい。（モニタリング調査員の中にも当該自然保護団体に所属している方が複数名いる。）
また、西初石小鳥の森と隣接しているため、時期によってホタルが観測出来る貴重な地点であるため、西初石小鳥の森と併せて保全に取組んでいきたい。

◎

地権者	公有地	所管	流山市役所みどりの課（維持管理は市内自然保護団体に委託）

市民的視点

遊歩道が整備されており、植物名が記載されているプレートが要所に設置されているため、市民が立ち入りやすく、自然に触れやすい環境になっている。また、市内自然保護団体の所有の自然保護を促す看板も設置されている。

総合評価

植物相の絶滅危惧種の観測数の増加、ヘイケボタルが観察できるなど、本拠点の保全がしっかり行われている。市民団体が維持管理に携わっており、それが本拠点の環境に合った形で施されている。したがって、保全に取組むにあたっても協力を得やすい。
絶滅危惧種の増加が顕著かつホタルの観測ができる貴重な地点であるため、隣接している西初石小鳥の森と併せて保全に取組んでいきたい。

◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

【生物】資料２－５

⑤大堀川

多様性　評価結果

絶滅危惧種数の減少が見られる。調査員の評価も低い。　○

環境タイプ	河川　湿地　河畔林　斜面林

モニタリング調査データ

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					221	232	168	145	172	136	173	153
	絶滅危惧種数					8	8	3	1	2	1	4	2

2015　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、イヌアワ(D)、ミゾコウジュ(D)、シラン(C)、コホタルイ(A)、ミゾコウジュ(D)、キンガヤツリ(B)

2016　カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、シラン(C)、セトガヤ(A)、ミゾコウジュ(D)、コホタルイ(A)、キンガヤツリ(B)、タカアザミ(D)

2017　カワヂシャ(NT)、シラン(C)、ミノボロ(C)　2018　カワヂシャ(NT)　2019　カワヂシャ(NT)、ミゾコウジュ(D)　2020　カワヂシャ(NT)

2021　カワヂシャ(NT)、ミゾコウジュ(D)、ミノボロ(C)、キンガヤツリ(B)　2022　カワヂシャ(NT)、ミゾコウジュ(D)

モニタリング調査員意見

水辺と比較して、遊歩道は多様性が弱い。

担保・制約性　評価結果

千葉県の所管であるが、まちづくり推進課が整備事業を実施しているという実績がある。定期的に草刈りや遊歩道確保等の整備が行われ、市民の立ち入りのハードルは低くなっている。保全の取組みに関しては、草刈りの範囲、時期、程度を河川事務所と協議出来れば、多少多様性の回復の可能性がある。　△

地権者	公有地	所管	千葉県（柏土木事務所）

市民的視点

周辺に「大堀川水辺公園」があり、整備されて川沿いを散策出来るような遊歩道も確保されている。
鳥や虫などの生物が多様に観察できる。

総合評価

絶滅危惧種数が減少しているほか、確認種数も減少傾向にある。
定期的な草刈りや遊歩道確保等の整備が行われており、市民の立ち入りは可能となっているが、千葉県と草刈りの範囲や整備について協議することで、生物の確認種数が回復する可能はあるものと考えている。　○

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

【生物】資料２－６

⑥利根運河

多様性　評価結果

植物相、チョウ類だけでなく、鳥類において顕著な絶滅危惧種数を記録している。調査拠点として他拠点と規模の違いはあるが、市内でも良質な水環境が維持されていると判断する。	◎

環境タイプ	草原　河川　河畔林

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	233	383	413	408	440	445	343	345	317	358	374	342
絶滅危惧種数	11	18	17	14	23	21	12	13	9	10	13	9

2011 タコノアシ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、ノカラマツ(B)、ヒメシオン(B)、フジバカマ(B)、ホソバイヌタデ(C)、ヤマラッキョウ(D)、イヌアワ(D)、ヒメタデ(D)

2012 ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、イヌアワ(D)、ゴキヅル(D)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ヒメシオン(B)、ヒメタデ(D)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)、ヤマラッキョウ(D)

2013 ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、(NT)、アマナ(C)、イヌアワ(D)、コオニユリ(C)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ヒメシオン(B)、ハナムグラ(C)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ホソバイヌタデ(C)、ヤガミスゲ(D)、ヤマラッキョウ(D)

2014 ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、カワヂシャ(NT)、イヌアワ(D)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、ジュウニヒトエ(D)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ヒメシオン(B)、ヒメタデ(D)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ヤガミスゲ(D)

2015 ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、イヌアワ(D)、イヌムラサキ(B)、コオニユリ(C)、ゴキヅル(D)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、セイタカハリイ(D)、ナルコスゲ(C)、ナンバンハコベ(C)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ノニガナ(C)、ヒメシオン(B)、ヒメタデ(D)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)

2016 ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、コオニユリ(C)、ゴキヅル(D)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、セイタカハリイ(D)、ナルコスゲ(C)、ヌカボタデ(C)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ノニガナ(C)、ヒメシオン(B)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)、ヤマラッキョウ(D)

2017 タコノアシ(NT)、カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、ゴキヅル(D)、サクラオグルマ(RH)、ノウルシ(C)、ヒメシオン(B)、ヒメタデ(D)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)、ヤブスゲ(C)

2018 カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、サクラオグルマ(RH)、サデクサ(D)、ヌカボタデ(C)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ノジトラノオ(C)、ヒメシオン(B)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)

2019 カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、サクラオグルマ(RH)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ヒメシオン(B)、ヒメナミキ(D)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)

2020 カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、サクラオグルマ(RH)、シマツユクサ(B)、セイタカハリイ(D)、ノウルシ(C)、ヒメシオン(B)、フジバカマ(B)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)

2021 ウスゲチョウジタデ(NT)、カワヂシャ(NT)、ゴキヅル(D)、サクラオグルマ(RH)、シマツユクサ(B)、セイタカハリイ(D)、ノウルシ(C)、ノカラマツ(B)、ヒメシオン(B)、ヒメナミキ(D)、フジバカマ(B)、ミゾコウジュ(D)、ヤガミスゲ(D)

2022 ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、カワヂシャ(NT)、アマナ(C)、シマツユクサ(B)、セイタカハリイ(D)、ノウルシ(C)、ヒメシオン(B)、ヒメナミキ(D)

鳥類
※3 拠点で調査
※左 繁殖期
右 越冬期

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	29 35 34	19·26 22·26 35·47	25·21 19·22 39·41	26·- 15·- 43·-								
絶滅危惧種数	14	17	22	17								

2011 イソシギ(A)、イワツバメ(D)、オオヨシキリ(D)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、キセキレイ(B)、コサギ(B)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)

2012 イカルチドリ(C)、イソシギ(A)、オオヨシキリ(D)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、キセキレイ(B)、コサギ(B)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハイタカ(B)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ヨシゴイ(A)

2013 アカゲラ(C)、イカルチドリ(C)、イソシギ(A)、オオジュリン(D)、オオバン(C)、オオヨシキリ(D)、カイツブリ(C)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、クサシギ(C)、コサギ(B)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ツミ(D)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)

	2014 イソシギ(A)、オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、クサシギ(C)、コサギ(B)、コチドリ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ツミ(D)、ノスリ(C)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)

チョウ類

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数		30	33	36	32	35	36	32	35	38	32	32
絶滅危惧種数		10	3	6	2	4	7	4	7	6	3	2

2012 ギインイチモンジセセリ(NT)、アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、コムラサキ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)

2013 ギインイチモンジセセリ(NT)、ミヤマチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)

2014 ギインイチモンジセセリ(NT)、ミヤマチャバネセセリ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ゴマダラチョウ(C)、オオチャバネセセリ(C)

2015 ギインイチモンジセセリ(NT)、ミヤマチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)　2016 ギインイチモンジセセリ(NT)、ジャノメチョウ(C)

2017 ギインイチモンジセセリ(NT)、ヤマチャバネセセリ(C)、コムラサキ(C)、ジャノメチョウ(C)

2018 ギインイチモンジセセリ(NT)、ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)

2019 ギインイチモンジセセリ(NT)、ウラナミアカシジミ(C)、アカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)

2020 ウラナミアカシジミ(C)、アカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)

2021 ミヤマチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)　2022 ミドリヒョウモン(C)、ジャノメチョウ(C)

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ヘイケボタル 2019 年 19、2020 年 4、2021 年 4、2022 年 3

モニタリング調査員意見

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

担保・制約性　評価結果

所管である江戸川河川事務所の協力の基、市民団体や利根運河協議会が主体となり、保全活動が活発に実施されている。他の重点地区・拠点と比べて、積極的な環境保全が期待出来る。モニタリング調査地の中で調査している生物相数が最も多い。 自然環境の保全や啓発に協力的な市民団体の活動拠点となっているため、市として活用しやすい地点である。	◎

地権者	公有地	所管	国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所

市民的視点

運河沿いが遊歩道になっており、憩いの場としての認識。また、市民環境団体による自然観察会等のイベント会場としても活用されている。

総合評価

所管である江戸川河川事務所の協力の基、市民団体や利根運河協議会が主体となり、保全活動が活発に実施されており、他の重点地区・拠点と比べて、積極的な環境保全が期待出来る。植物相、チョウ類だけでなく、鳥類においても顕著な絶滅危惧種数を記録しており、全体として確認種数も多い状態が維持していく必要がある。	◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

⑦理窓会記念自然公園

多様性 評価

市内で最も多様な水環境の一つであり、拠点の中でも全指標を調査、観測できる貴重な拠点である。今後も維持が望まれる。	◎

環境タイプ	森林 草地 池 湿地

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	182	277	304	262			196	174	192	134	202	236
絶滅危惧種数	4	9	11	15			4	2	5	3	6	6

2011 キンラン(D)、ギンラン(D)、ノジトラノオ(C)、チャボチヂミザサ(D)

2012 アマナ(C)、キンラン(D)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、タチフウロ(D)、チャボチヂミザサ(D)、ノジトラノオ(C)、ヤブムグラ(C)、ヤマラッキョウ(D)

2013 アマナ(C)、イヌアワ(D)、ウメモドキ(C)、オミナエシ(D)、キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、チョウセンガリヤス(D)、ノジトラノオ(C)、ヤブムグラ(C)

2014 エビネ(D)、オミナエシ(D)、カセンソウ(C)、キンラン(D)、ギンラン(D)、クルマバナ(D)、コオニユリ(C)、ジュウニヒトエ(D)、タチフウロ(D)、ノジトラノオ(C)、ハネガヤ(C)、フナバラソウ(C)、マキエハギ(D)、ヤブムグラ(C)、ヤマラッキョウ(D)

2017 キンラン(D)、ギンラン(D)、ノジトラノオ(C)、ジュウニヒトエ(D)　2018 キンラン(D)、ノジトラノオ(C)

2019 キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ノジトラノオ(C)、ジュウニヒトエ(D)　2020 キンラン(D)、ギンラン(D)、ヤブムグラ(C)

2021 キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、ノジトラノオ(C)、ヤブムグラ(C)

2022 イヌアワ(D)、キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、ヤブムグラ(C)

鳥類
※左 繁殖期
右 越冬期

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	--30	28･37	28･36	28･--								
絶滅危惧種数	4	12	13	5								

2011 カイツブリ(C)、カサセミ(C)、バン(B)、ホオジロ(C)

2012 オオヨシキリ(D)、オオルリ(B)、カイツブリ(C)、カケス(D)、カサセミ(C)、キセキレイ(B)、キビタキ(A)、コサギ(B)、ダイサギ(D)、ノスリ(C)、ハイタカ(B)、ホオジロ(C)

2013 アカゲラ(C)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、カケス(D)、カサセミ(C)、コサギ(B)、トラツグミ(A)、ノスリ(C)、ハイタカ(B)、バン(B)、フクロウ(B)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)

2014 カイツブリ(C)、バン(B)、ダイサギ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)

チョウ類

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数		31	35	36	37	38	35	33	38	39	40	42
絶滅危惧種数		4	3	5	3	5	4	2	2	4	5	6

2012 ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)

2013 ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)

2014 ウラナミアカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)

2015 ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)

2016 ウラナミアカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)

2017 ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)

2018 アカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)　2019 ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)

2020 ウラゴマダラシジミ(C)、アカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)

2021 アカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)

2022 アカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、オオウラギンスジヒョウモン(A)

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ニホンアカガエル この拠点内を 10 拠点に分けて卵塊数を調査している。 2019 年 147、2020 年 212、2021 年 349、2022 年 223 ヘイケボタル 2019 年 10、2020 年 2、2021 年 62、2022 年 15 カヤネズミ　巣の数 2019 年 0、2020 年 7、2021 年 1、2022 年 2

モニタリング調査員意見

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

担保・制約性　評価

令和5年11月に、東京理科大学、流山市、野田市、市民団体等が協力し、敷地内の環境整備の一環として草刈りを実施した。東京理科大学は、当該敷地内の自然環境の維持、保全、整備に対し積極的である。また、野田市も同じく協力的であり、生物多様性保全に関するノウハウが充実している。東京理科大学、流山市、野田市の三者で包括連携協定を締結していることから、協働で保全や啓発に取組めることが期待出来る。	◎

地権者	民有地	所管	東京理科大学

市民的視点

駅や住宅街の生活圏から近く、身近な自然環境である。豊かな自然が維持されており、遊歩道もあるため、散歩や自然観察する人が多く出入りしている。貴重な地形や生物が多く存在するため、観察会等のイベントも開催されている。

総合評価

東京理科大学、流山市、野田市、市民団体等が協力し、敷地内の環境整備を行うなど、本拠点が生物多様性の観点から重要であることは関係者全員が認識している。 包括連携協定に基づき、協働で保全や啓発に取組めることが期待出来る。また、拠点の中でも全指標を調査、観測できる貴重な拠点である。 以上のことからも、今後も関係者協力のうえ保全していくべき拠点である。	◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

【生物】資料２－８

⑧西深井北西部

多様性　評価結果

鳥類において顕著な絶滅危惧種数を観測している。他調査種で観測数が小さい結果も散見されるが、調査員のコメントのとおり多様な種が観測できる貴重な拠点であると判断する。	◎

環境タイプ	草地　水田　斜面林　ヨシ原　畔　用水路

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	182	243	267	234			235	206	217	165	165	203
絶滅危惧種数	5	7	8	7			8	6	5	4	4	4

2011　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)

2012　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)

2013　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヒメタデ(D)

2014　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヒメタデ(D)

2017　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、スジヌマハリイ(D)、ホソバイヌタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヒメタデ(D)、タカアザミ(D)

2018　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、ホソバイヌタデ(C)、ノニガナ(C)、ヒメタデ(D)

2019　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、ヒメタデ(D)、タカアザミ(D)

2020　ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ヒメタデ(D)

2021　ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ヒメタデ(D)

2022　カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、ホソバイヌタデ(C)

鳥類
※左　繁殖期
右　越冬期

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数	25	30･35	29･30	35･-	31･32	25･30	28･29	30･35	31･35	29･34	46	48
絶滅危惧種数	11	17	17	16	16	13	11	15	15	17	17	17

2011　オオヨシキリ(D)、コザギ(B)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2012　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2013　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、バン(B)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2014　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)、ムナグロ(B)

2015　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2016　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ツミ(D)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2017　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)

2018　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、ケリ(A)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、バン(B)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2019　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒクイナ(A)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2020　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒクイナ(A)、ハヤブサ(A)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2021　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、クサシギ(C)、ケリ(A)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)

2022　オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒクイナ(A)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)、ムナグロ(B)

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ニホンアカガエル 2019年0、2020年0、2021年0、2022年0 カヤネズミ 2019年1、2020年1、2021年18、2022年2

モニタリング調査員意見

近隣の開発による影響が大きい中、絶滅したと思われたニホンアカガエルの子カエルを観測したほか、カヤネズミや猛禽類も観測されており、多様な種が観測できる貴重な拠点である。

担保・制約性　評価結果

大規模物流倉庫等の建設に伴う草刈り等の人為的影響が大きく、また国や千葉県が所管していることから積極的な保全があまり期待できない。しかし、流山市の中でも希少な生物を観測出来る地点であるため、所管組織と協議して、草刈りの頻度、範囲、程度等を調整してもらえる可能性がある。	○

地権者	公有地	所管	国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所

市民的視点

水田地帯であるため、憩いの場としての利用や散策するための立入りは少ない。また、近くに大規模物流倉庫等の建設もあり、自然環境というイメージはあまりない。

総合評価

多様な種類の生物、また、希少な生物が観測できる拠点である。 しかし、大規模物流倉庫等の建設に伴う草刈り等の人為的影響が大きく、また国や千葉県が所管していることから積極的な保全があまり期待できない。 そのため、所管組織と協議して、草刈りの頻度、範囲、程度等を調整し、本拠点を保全していく必要がある。	◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

⑨みやぞの野鳥の池、坂川、熊野神社周辺の森

多様性　評価結果

熊野神社周辺の森は市内でも貴重な森環境であり、一定数の鳥類を観測しているほか、周辺の環境も少なからず一定数の希少な種が活動が見られるため、拠点として評価する。　○

環境タイプ	森林　草地　池　湿地

モニタリング調査データ

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					155	214	187	149	157	120	183	155
	絶滅危惧種数					8	4	2	5	3	2	5	3

2015　ガガブタ(C)、キンラン(D)、コムラサキ(C)、ササクサ(C)、シラン(C)、センリョウ(D)、ミゾコウジュ(D)、ヤマハンノキ(D)
2016　キンラン(D)、コムラサキ(C)、ササクサ(C)、シラン(C)　2017　ササクサ(C)、シラン(C)
2018　キンラン(D)、ササクサ(C)、シラン(C)、センリョウ(D)、ヤマハンノキ(D)　2019　ササクサ(C)、シラン(C)、ヤマハンノキ(D)
2020　ササクサ(C)、センリョウ(D)　2021　ササクサ(C)、シラン(C)、センリョウ(D)、ミゾコウジュ(D)、ヤマハンノキ(D)
2022　キンラン(D)、シラン(C)、センリョウ(D)

鳥類 ※左　繁殖期 右　越冬期	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					13･15	17･19	15･14	14･20	15･19		16	20
	絶滅危惧種数					2	3	3	3	3		1	2

2015　アカゲラ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、コサギ(B)、フクロウ(B)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)　2016　キビタキ(A)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)
2017　カケス(D)、キビタキ(A)、ホオジロ(C)　2018　アカゲラ(C)、キビタキ(A)、ホオジロ(C)
2019　キビタキ(A)、コサギ(B)、ホオジロ(C)　2021　ホオジロ(C)　2022　キビタキ(A)、ホオジロ(C)

モニタリング調査員意見

拠点エリアが広い箇所である。みやぞの野鳥の池ではカワセミ、カイツブリ、バンといった鳥たちの繁殖地になっていて貴重な拠点である一方で、坂川付近は植物相も鳥類も多様性は豊富ではない。しかし、熊野神社周辺の森は日当たりが悪く植物相は厳しいものの、鳥類において希少な種が観測されており、市内でも貴重な森環境を踏まえても、一定の評価できる。

担保・制約性　評価結果

・みやぞの野鳥の池　【◎】

基本理念に野鳥観察を重視する旨が含まれているため、野鳥の生息や繁殖を促進する環境づくりや保全活動が期待出来る。また、住宅街の中に位置しているので、生活圏の中にある自然環境として貴重である。

・坂川　【△】

江戸川河川事務所に対し、草刈りの時期、頻度、範囲についての協議をし、出来るだけ多様性を保全することは出来る。しかし、元々の多様性自体が貧相であるため、江戸川河川事務所が主体となって環境整備をする必要があると考えている。

・熊野神社周辺　【△】

思井の森や熊野神社周辺の森は多くが民有地であるため、積極的な保全活動は困難である。しかし、貴重な極相林であり、開発の際は可能な限り森を残していく方針が定められているため、環境整備という面ではなく、出来る限り維持をするという面からの保全に取組んでいきたい。

地権者	・みやぞの野鳥の池⇒公有地 ・坂川⇒公有地 ・熊野神社周辺⇒民有地	所管	・みやぞの野鳥の池⇒流山市役所下水道建設課 ・坂川⇒国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所 ・熊野神社周辺⇒民有地

市民的視点

・みやぞの野鳥の池
柵があり敷地内には出入り出来ないが、周辺にベンチが設置されていることや、水辺に生息する鳥を観察出来るような環境づくりがされている。

・坂川
草刈りが実施されていて、植物の生息があまり見受けられないが、川沿いは散歩が出来るような道が舗装されているため、多く人が通行をしている。

・熊野神社周辺
熊野神社に続く道沿いは緑が豊かである。しかし、熊野神社周辺は、民有地であるため敷地に立ち入りは難しい。

総合評価

・みやぞの野鳥の池 【◎】

野鳥の繁殖地になるなど貴重な拠点である。基本理念に野鳥観察を重視する旨が含まれており、今後も保全活動が期待出来る。また、住宅街の中に位置しているので、市民の身近にある自然環境としても貴重である。

・坂川 【○】

江戸川河川事務所と草刈りの時期、頻度、範囲についての協議をし、多様性を保全することは出来る。元々の多様性自体が豊富ではないため、今後、環境を整備し、多様性が豊富になるよう河川事務所が主体的に動く必要があると考えている。

・熊野神社周辺 【○】

民有地が多く、積極的な保全は困難である。しかし、貴重な極相林であり、鳥類の希少種も観測していることから、開発の際は可能な限り森を残していく方針が定められており、「維持」という側面からの保全に取り組む必要がある。

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

⑩西平井水鳥の池

多様性　評価結果

絶滅危惧種数は一定数観測されているが、調査員の意見のとおり環境に乏しく今後の見込みが小さいこと、鳥類のみと調査する指標種も少ないため、評価として低い。

△

環境タイプ	調整池　草地

モニタリング調査データ

鳥類 ※左 繁殖期 右 越冬期	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数							14･14	13･12	14･13	9･12	19	17
	絶滅危惧種数							7	3	4	3	5	4

2017 オオバン(C)、オカヨシガモ(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、コアジサシ(A)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)

2018 オオバン(C)、カイツブリ(C)、コチドリ(A)　2019 オオバン(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、コアジサシ(A)　2020 コアジサシ(A)、カイツブリ(C)、バン(B)

2021 オオバン(C)、カイツブリ(C)、コアジサシ(A)、ハイタカ(B)、バン(B)　2022 オオバン(C)、カイツブリ(C)、コチドリ(A)、バン(B)

モニタリング調査員意見

葦の範囲が狭小化しているためか、水鳥の繁殖も今後見込めない。現状は厳しい。

担保・制約性　評価結果

野鳥が観察出来る場所として整備を実施する可能性はある。例えば、野鳥の生息を促進するために、ヨシ等の植栽や、浮島の設置等の人為的インパクトを与える必要がある。
現状、周囲や水辺に植物類の生息がかなり貧相であるため、環境を整備するには、下水道建設課の協力に加えて、大きな時間やコストが必要になる。

○

地権者	公有地	所管	流山市役所下水道建設課

市民的視点

敷地内に植物があまり見られず、池が広がっている。多少の野鳥は観測出来る。また、ベンチ等の設置はなく、「自然環境」というよりは「調整池」のイメージの方が強い。

総合評価

絶滅危惧種数は一定数観測されているが、確認種数は少ない。環境が良好でないことから、周囲や水辺に植物類の生息がかなり貧相である。
環境整備には多大な時間やコストが必要になる。本市の上下水道局が所管していることから時間、コストがクリアできれば、多様性の促進につながるものと考えている。

○

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

⑪芝崎小鳥の森

多様性　評価結果

植物相は絶滅危惧種数を少ないながら記録している。調査員の意見のとおり、今後整備により期待できる水環境が存在するとのことから、中評価とする。

○

環境タイプ	湿地　森林

モニタリング調査データ

植物

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
確認種数					94	171	100	87	87	69	78	36
絶滅危惧種数					2	7	6	6	5	3	4	1

2015　キンラン(D)、ササクサ(C)

2016　シラン(C)、タイワンホトトギス(CR)、オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)

2017　オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、センリョウ(D)

2018　オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、ササバギンラン(D)

2019　オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)　2020　オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)

2021　オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)　2022　キンラン(D)

モニタリング調査員意見

水辺はあるが、生息種類が少ない。草刈や整備不足が影響していると思われる。池や水辺があり、整備すれば高評価の見込みがある

担保・制約性　評価結果

遊歩道沿いには植栽された植物が多く、低木や下草は綺麗に伐採されているため、かなり人為的な整備が施されている。みどりの課主導で、市民団体等に依頼して、植物名が記載されたプレートや野鳥に関する看板等を設置したという経緯がある。奥には水辺があるが、整備されていない。今後、水辺環境を整備出来れば、野鳥や虫が生息する環境になることが期待出来るが、地権者が流山市ではないため、どこまで手を加えられるのかを要所に確認・協議をする必要がある。

○

地権者	民有地	所管	流山市役所みどりの課

市民的視点

散策路が整備されていて、立ち入りやすい。しかし、出入り口は車通りが多い道路と接していて危ない。中には、野鳥に関する看板や植物のネームプレートが設置されているため、自然に触れやすい。

総合評価

確認種数、絶滅危惧種数ともに少ない状況にある。今後の環境整備によっては、多様な種の生息場所となり得るが、民有地のためしっかりと協議しなければならない。
市民団体の協力を得て実施していることもあり、水辺環境の整備などに向けて協議し、整備を進めていく必要がある拠点であると考えている。

○

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

⑫野々下水辺公園周辺

多様性　評価結果

植物相の評価が低いものの、鳥類やニホンアカガエルが一定数観測されること、また環境として周辺の谷津環境が影響しており今後も良質な環境が保たれると判断する。

◎

環境タイプ	森林　湧水　河川

モニタリング調査データ

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
植物	確認種数							116	120	127	156		136
	絶滅危惧種数							1	1	1	1		1
	2017 サデクサ(D)　2018 サデクサ(D)　2019 サデクサ(D)　2020 キンラン(D)　2022 マヤラン(C)												
鳥類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					13・22	16・25	16・18	19・20				
	絶滅危惧種数					6	6	5	9				
	2015 オオヨシキリ(D)、カケス(D)、キセキレイ(B)、キビタキ(A)、サシバ(A)、ノスリ(C)												
	2016 オオヨシキリ(D)、カケス(D)、キセキレイ(B)、コサギ(B)、ダイサギ(D)、ホオジロ(C)　2017 オオヨシキリ(D)、キビタキ(A)、ノスリ(C)、ホオジロ(C)、サンコウチョウ(A)												
	2018 アカゲラ(C)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、サシバ(A)、ダイサギ(D)、ハイタカ(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												

アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ニホンアカガエル 6拠点に分けて調査している。 2019年25、2020年37、2021年30、2022年22

モニタリング調査員意見

植物相は観測数が少ない。鳥類では繁殖が見られ、アカガエルの観測も考慮すると良質な環境と考える。周辺の谷津環境が良質であり、影響していると考える。

担保・制約性　評価結果

モニタリング調査を行っている野々下水辺公園周辺は、自然環境の良好な湿地や斜面林はほとんど私有地であり、積極的な保全に取組める期待は出来ない。また、地権者が委託をしているのか定かではないが、道路にはみ出して生えている植物は定期的に草刈りが行われている。また、鳥類も観測されているため、民有地内は生息環境が良好であることがうかがえるが、今後存続される環境かどうかの判断がつかない。
野々下水辺公園自体は、人為的な整備がされている。

△

地権者	公有地、民有地	所管	流山市役所みどりの課、民有地

市民的視点

野々下水辺公園自体は、植栽や水辺の整備がされていて子供が立ち入りやすく、自然に触れられるようになっている。モニタリング調査地として設定している箇所については、道路沿いであり、斜面林や湿地は私有地であるため、馴染みはないかと思われる。

総合評価

植物の確認種数や絶滅危惧種が多くはないが、ニホンアカガエルが観測されており、
また、鳥類の繁殖が見られるなど、良質な環境であると考えられる。
ほとんどが民有地であり、積極的な保全は期待出来ず、定期的な草刈りが行われており、人為的な整備がされている。
今後も環境が維持されるよう協議すべき場所であると考えられる。

◎

緑ヶ丘水辺公園周辺

評価項目	評価
緑豊かな新市街地が広がり，緑地ネットワークが形成されていることから，まちづくりの基盤として周辺の谷津環境を保全し，今後も良質な環境が保たれると判断する。	◎

森林，農地，河川

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
開発件数							116	120	127	139		136
開発面積							1	1	1	1		1

2017 年度データ(D)　2018 年度データ(D)　2019 年度データ(D)　2020 年度データ(D)　2021 年度データ(D)

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
開発件数					15	22	16	14	13	20		
開発面積					0	0	0	0				

2014 年度データ(D)，2015 年度データ(D)，2016 年度データ(D)，2017 年度データ(D)，2018 年度データ(D)，2019 年度データ(D)，2020 年度データ(D)，2021 年度データ(D)，2022 年度データ(D)

ニホンノウ川沿いの

も農地が多く残っている。

2018 年度，2020 年度，2021 年度，2022 年度

評価
緑地地区の指定数が少ない，農地では実測が見られて，不知川上流の開発を考慮すると区域が広くなる。用途の分類変更が必要であり，検討していくこと。

中央公園周辺

評価項目	評価
そこいらで開発を行っている緑ヶ丘水辺公園周辺は，自然環境の良好な場所。今後，市街化区域内林は ほとんどが有効であり，緑地的な保全に期待する開発は出来ない。また，河川敷が空地化している。 ただ，まだ，当時の開発されていない。 現状には入り組んでいる緑地は生産緑地に変化(1)が行われている。 また，今後保全される緑地をどうするかの判断がつかない。 **緑ヶ丘水辺公園自体は，人為的な整備がなされている。**	△

公有地，国有地	飯山市役所から2kmの範囲，国有地

緑ヶ丘水辺公園自体は，開発や水辺の整備がなされていて手付かずとはいかず，自然に戻されるようにしている。 そこは，[illegible]として開発されている部分[illegible]では，若干残っている。自然林が開発されたとしても，開発は はなかなか難しい。

住宅地

評価項目	評価
緑地の保全開発や緑地造成開発などは行われず，ニホンノウ川沿いが緑地として残されている。 また，農地の実測が見られるなど，自然が豊富であると考えられる。 ほとんどが国有地であり，開発時に保全は期待出来ず，定期的な草刈り行われている。 人為的な整備がなされている。 今後も開発が進行されることは難しく，保全が期待できる。	◎

※令和６年５月21日の環境審議会資料です。審議によって内容やデータ等が変更となる可能性がありますので閲覧目的以外での資料の活用等にはご注意ください。

⑬総合運動公園周辺

多様性　評価結果

植物相の観測数は低いが、鳥類は一定数を観測できる貴重な公園である。公園整備が終了すれば観測数の向上も見込まれるため、多様性の評価は維持する。

◎

環境タイプ	森林　草地　調整池

モニタリング調査データ

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
植物	確認種数							78	92	91	125	172	183
	絶滅危惧種数							2	1	-	1	4	1

2017 キンラン(D)、ギンラン(D)　2018 キンラン(D)　2020 ドクゼリ(A)　2021 ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ミノボロ(C)、ミズハナビ(C)　2022 ギンラン(D)

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
鳥類	確認種数					12・19	28・33	18・31	27・31	26・34	17・30	40	38
	絶滅危惧種数					1	10	7	8	6	10	6	5

2015 カイツブリ(C)　2016 オオバン(C)、オオヨシキリ(D)、オカヨシガモ(C)、カイツブリ(C)、カケス(D)、カワセミ(C)、キビタキ(A)、ダイサギ(D)、ノスリ(C)、ホトトギス(C)

2017 オオバン(C)、オカヨシガモ(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、ノスリ(C)、バン(B)

2018 イワツバメ(D)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、カンムリカイツブリ(D)、サシバ(A)、ノスリ(C)、ホオジロ(C)

2019 オオバン(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、カンムリカイツブリ(D)、ホオジロ(C)、ミソサザイ(C)

2020 アカゲラ(C)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、コサギ(B)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ノスリ(C)、ホオジロ(C)、ヒバリ(D)

2021 アカゲラ(C)、カイツブリ(C)、カケス(D)、ハイタカ(B)、ホオジロ(C)、ヒバリ(D)　2022 アカゲラ(C)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、ホオジロ(C)、ヒバリ(D)

モニタリング調査員意見

植物相は公園内の整備の影響か、絶滅危惧種数の観測数が少ない状態が続いている。しかし、周辺の地形や水環境は良質であり、市内で最大の公園という面も考慮すると多様性の維持が必要である。

担保・制約性　評価結果

総合運動公園や調整池は流山市の所管であるが、それ以外の周辺の谷津や水田は民有地であるため、積極的な保全活動は難しい。2020年頃に存在していた水田が埋め立てられてしまったという事例もあり、開発に伴い地権者がどのように運用していくかという不安定な要素も含んでいる。開発・整備が進んだ総合運動公園及びその周辺は、市民の出入りが増加することによる植物や鳥類への影響を最小限にする工夫が必要になる。

△

地権者	公有地、民有地	所管	流山市役所、民有地

市民的視点

総合運動公園から八木中の裏にかけて谷津、調整池、水田等があり、駅から近い豊かな自然である。

総合評価

植物は絶滅危惧種が少ないものの、鳥類は一定数の観測ができる拠点である。 公有地と民有地が混在しているため、積極的な保全活動は難しく、過去には水田が埋め立てられてしまったという事例もある。 地権者がどのように運用していくかによって変わっていくため、保全のためには協議が必要な場所である。開発、整備が進んだ総合運動公園及びその周辺は、市民の出入りが増加することが想定できることから、影響を最小限にする工夫が必要。 貴重な拠点であることから、保全に向け、取り組んでいく必要があると考えている。	◎